

## 学習の流れの例

- ① 平日はほとんど学校にいることから、地震発生時、学校に潜む危険は何か考える。  
例) 理科室の薬品、調理実習中のこんろなど。
- ② 各学校で定めている登下校の避難の方法を確認する。
- ③ 休日にはどんな危険が潜んでいるか考える。  
例) エレベーターに閉じ込められる、遠方に遊びに行って徒歩で帰れないなど。

## 学習後の生徒の姿

自分の行動パターンを分析し、生活の中にどのような危険があるか自ら探し出し、それらの危険に備える心構えをもとうとしている。

このページの

指導案 ワークシート

はコチラから!

### 指導のポイント

ワークシートでは、1日の行動を円グラフで書き出すことで、視覚的にどの時間にどこにいるのかを把握する。1日の行動を振り返ったうえで、考えられる危険についてピックアップ対策を考える。このような流れで学習できるようになっている。

ふだん、避難訓練で使用しない教室や特別教室で地震が発生したとき、どのような危険が潜んでいてどのように身を守れば良いのか考えておくことで、発災時、少しでも慌てずに行動できるようにする。

学校によって教室の構造や種類、設置物が異なるため、ガイドに載っていない教室なども積極的に取り入れて考えるようにする。

#### ●普通教室

- ・戸棚、本棚、ロッカーなどが倒れる危険がある。
- ・蛍光灯、時計、テレビ、壁などが落下するおそれがある。
- ・暖房器具の倒壊による火災発生の危険がある。  
→倒れたり、落下したりしない場所へ速やかに避難する。
- 避難のタイミングを逃した場合は、机の下にもぐったり頭部を保護する。

#### ●理科室

- ・薬品棚が転倒し、薬品が散乱するおそれがある。
- ・棚の近くに座っている生徒はただちに棚から離れる。
- ガスバーナーが倒れ出火する。
- 揺れがおさまってから火を消し、ガスの栓を閉める。

#### ●家庭科室

- ・調理実習中の沸騰した湯や火でやけどするおそれがある。
- 倒れてこない場所へ速やかに避難する。  
ガス漏れによる火災発生のおそれがある。  
アイロンによる火災発生のおそれもある。
- ガスの元栓を閉め、電源を抜いて火災の原因をなくす。

1章 地震-4
ワークシート有り
🏠

## 私たちの1日に潜む危険

地震が起こったときにいる場所・時間など、状況によって危険は異なります。そのときにあわてないよう、事前に危険箇所を把握することが大切です。

めあて 生活の中にどのような危険があるか把握し、備える心構えをもつ。


### ◆自分の行動パターンを分析

自分がいる場所にはどのような危険が潜んでいるのでしょうか。学校の日と休みの日、それぞれの24時間をふり返り、書き出してみましょう。

#### 学校にいるとき

〈例〉普通教室にいるときに、照明が割れて破片が落ちてくる。

他に考えられること

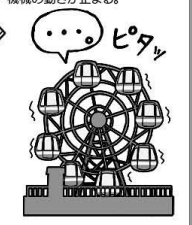


※落ちてくるもの(照明や棚の上のもの)・前  
れてくるもの(固定されていない棚)・移動し  
てくるもの(配膳台など)に注意。

#### 外出中のとき

〈例〉観覧車に乗っているときに、機械の動きが止まる。

他に考えられること



### ① 登下校中に地震が起こったら


まず、倒れてくるものや落下物から命を守る行動をとりましょう。次に、近い場所に避難しましょう。

#### 中間地点より自宅に近い場合

- 自宅に保護者がいるとき  
→自宅に引き返す
- 自宅に保護者がいないとき  
→学校に行く

#### 中間地点より学校に近い場合

→学校に行く



#### 自宅にいるとき

自宅の区や地域が震度5強以上ではなくても、横浜市内のどこか一地点でも震度5強が観測されたときは、登校の必要はありません。

#### 学校にいるとき

帰宅は保護者への直接引き渡しを原則です。生徒は勝手に家に戻ってはいけません。保護者と連絡がとれないときは学校で待機します。

#### 平日

起床 6:00 登校 8:00 学校 8:30


#### 休日

起床 6:00 自由時間 8:30

#### 登下校のとき

〈例〉ブロック塀が倒れてくる。切れた電線には電気が流れているおそれがある。

他に考えられること



※カバンなどで頭を守り、落下物や損壊に気をつける。

#### ●自宅にいるとき

⇒本誌 p.3ページ・p.6 ページ

#### ●外出中のとき・●登下校のとき

⇒本誌 p.3ページ・p. 5ページ

### 指導のポイント

このページでは、災害安全に関する授業だけで考えるのではなく、避難訓練を通じて平日頃から「今地震が起こったらどんな危険があるだろうか」「避難経路はどうしたらいいのだろうか」など、どのように身を守る行動をするべきか考える習慣がつかないようにする。